

元気いっぱい、感動いっぱい、友達いっぱい！ 踏みだそう最初の一步「オープン・ザ・ドア！」

Open the Door!

国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Vol.11

最新情報は…

国立妙高青少年自然の家

検索

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家
コミュニケーションマガジン

Open the Door!



大自然！
いつもと違うからおもしろい

特集1 ココロにひびけ！ ホンモノ体験
特集2 妙高学びの森



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立妙高青少年自然の家

〒949-2235 新潟県 妙高市大字関山 6323-2
TEL 0255-82-4321 FAX 0255-82-4325
<http://myoko.niye.go.jp/>

Open the Door! Vol.11 平成 29 年 3 月発行



便利な時代になった現代社会では、ネットゲームや与えられる楽しい遊び、情報が、自ら苦勞して求めなくても簡単に獲得できるようになってきました。

逆に人や土・水・草木・山・雪などの自然、地域の文化や歴史・産業といった社会と本気になつてかわる体験活動が、昔と比べると少なくなっています。

そして今、人との関係性や、社会との関係性がぎくしゃくしており、いじめ・不登校・ネット中毒などの青少年の教育課題が社会問題になっています。これらはいろいろな原因が絡み合つて、現代社会の問題点として表面化している現象の一つだと思っています。

国立妙高青少年自然の家では、青少年が自らそのような関係性を再構築し、生きる力を身につけられるように、意図的・計画的なホンモノ体験の提供を行っています。

体験活動は、人と人、人と自然、人と社会などを結び付けてくれます。そして、体験した人の豊かな人生の基盤になります。

国立妙高青少年自然の家は、このような体験

大 自 然

いつもと違うから
おもしろい!

活動の重要性を発信し体験活動の場を提供する「体験の風をおこそう」運動や、規則正しい生活を送るための「早寝早起き朝ごはん国民運動」を行うと共に、次代を担うたくましく心豊かな青少年を育成することを目的とした青少年教育施設です。

今回は、コミュニケーションマガジンとして11回目の発行となります。特集Iでは「コロナにひびけ！ホンモノ体験」と題して、国立妙高青少年自然の家で活動した子供たちやボランティアの声と姿をお伝えします。自然の家でのホンモノ体験を、どのように捉え、どのように感じているのか。その後を追ってみることで、体験活動の意義を再確認してみました。

特集IIでは、「妙高学びの森」と題して、今年度、新しい森と新しいプログラムを開発しました。開発した自然環境やプログラムを活用して「主体的・対話的で深い学び」を実現できるように指導者や地域の皆様と一体となって取り組んでいく様子をお伝えします。

皆様のご批評を賜りたくお願い申し上げます。





皆さんが国立妙高青少年自然の家で一番やってみたい体験は何ですか？自然の家が大切にしているのは、やはり「ホンモノ」であること。今年はどうな「ホンモノ」体験が飛び出したのか!! 紹介します。

特集1

ホンモノにひびけ！ 体験

MYOKOチャレンジ2016

自分の足で歩く100kmトレイルへの挑戦



MYOKO チャレンジ 2016
のねらい

- 自立**
自ら考え、的確に判断し、仲間と助け合いながら諦めずにやり抜く力を育む。
- 感謝**
野外での不自由な体験を通して、「あたりまえの生活」や家族、そして、ともに活動する仲間・自然への感謝の心を育む。
- 協働**
仲間との関わりの中で、自らの役割を考えて果たし、互いに尊重し合いながら、支え合う態度を育む。

ホンモノ体験 その1

MYOKOチャレンジ2016は、妙高戸隠連山国立公園をフィールドに「信越トレイル」と「火打山」「妙高山」を歩き、100kmを踏破する13日間のキャンプ体験です。「山道を歩く」「食事を作る」「テントを立てて眠る」ことを繰り返す活動を通して、「多様で変化の激しい社会の中で求められる『社会を生き抜く力』の育成」を目指します。

このMYOKOチャレンジ2016（以下、キャンプ）に参加したのは、小学校5年生から中学校1年生（募集は中学校2年生）までの18名の子供たちです。7月9日の事前キャンプで出会ったこの18名は、今年度施行された「山の日」8月11日の最終日には見事に成長した姿を見せてくれました。さらに、キャンプ後の様子を保護者にアンケートで答えていただいたところ、家庭や学校生活でもキャンプでつけた力を生かして生活していることがわかりました。キャンプ後の参加者の姿がキャンプとどのように結びついているのかを紹介します。



キャンプに参加するまでは時間にルーズなところがありました。キャンプ後は、時間を意識するようになり、時間を確認してどれくらいまで何をしたらいいかなどを考えて行動するようになりました。

遊びの予定とやらなければいけない宿題などを計画して取り組めるようになりました。

大

自然の中での活動は、計画通りに行かないことも多くあるため、細かい時間設定はありません。ただし、起床時間だけは厳守です。慣れないキャンプ生活で疲れもたまり、遅れてしまいう人もいましたが、時間に遅れると仲間たちが待っています。なかなか言葉が自然と出てきます。また、山の中を歩くときには、自分たちでタイムマネージメントを行い、休憩のタイミングと時間を決めます。「〇時〇分に出発」と確認しても身支度ができておらず、時間通りに出発できないこともありましたが、時間通りに出発するためには、「休憩時間の中で身支度もする」ということを互いに確認するなどキャンプの中で「時間を守ること」「時間通りに行動すること」を学び、時間を意識して計画的に行動することができるようになりました。



キ

キャンプ中は、「自分の事は自分でしなければならぬ生活」を送ります。例えば、朝は次の目的地へと出発するまでに、「身支度を整え、荷造りをする。朝食の準備や後片付けをする。テントを撤収する。」これらほぼ毎日繰り返します。最初の頃はできなかったことが、繰り返しやっているとできるようになったり、どうやれば上手にできるかを考えたりします。ある日のことです。大雨が降りテントサイトが水溜りになりました。テントの中の荷物が濡れてしまった人と無事だった人、その差は整理整頓ができていたかどうかでした。テントの中に荷物が散乱していた人はいろんな物が水浸しになってしまいました。こんな経験から整理整頓の大切さを学び即改善、行動へとつなげていました。

1 時間を意識して計画的に生活できる

「きれいーい！」
先を急ぐことをせず立ち止まって雲海を眺めている。MYOKOチャレンジ2016は、そんな場面の連続だった。

MYOKOチャレンジでは、他者との協働による生活体験で役割と責任を果たす経験や話し合い活動の中で自分の考えを伝える他者の考えを聴き、折り合いをつける経験など様々な経験をjを経て、心を磨いていきます。今回帯同していた筑波大学 坂本昭裕教授が開会式でこんなメッセージを保護者に伝えてくださいました。「顔は日焼けして、Tシャツも汚れていて見た目は少し汚いかもありません。しかし、この13日間で心はピカピカに磨きました。ぜひ、子供たちの成長を見てあげてください。」

13日間のキャンプ中、子供たちは妙高戸隠連山国立公園という大自然の中で過ごします。この大自然の中の活動を通して、「やまびこ」を体験し、「樹齢100年の樹木」に触れ、「天然記念物・黒岩山でギフチョウとヒメギフチョウ」に出会うなど、自然の雄大さに心を動かされます。「わあ！見て見て！」「こんなの初めて見た！」「また見たいね！」「子供たちは目をキラキラさせ、「仲間に見せたい！」その一心でみんなに伝えます。また、大自然の景色に触れた子供たちは、今まで気に留めることのなかった美しいものに目がいきます。家庭に帰った子供たちが普段の生活の中で、「山のシルエツトがきれいだね」「夕焼け見て！」という言葉を家族に伝えたとき、この言葉を聞いた家族は、わが子がどんな経験をしてきたのか、想いを募らせることでしょうか。

様々なメディアを通して画像や動画で見るとは違い、体で触れた経験はホンモノ体験から出てくる言葉は、相手の心を揺さぶる力を持っています。「妙高でいろんな経験してきたから何も心配ない。」学校での宿泊体験前、天気予報で台風が近づいているのを知って出た一言です。家族はこの言葉に頼もしくなった子供の成長を実感したのではないのでしょうか。

夕食のお手伝いで、先回りしてサッと手助けしてくれるようになった。手助けしてほしい相手の気持ちと、何をしたら助かるかがよくわかるようになったと感じます。

食事の準備など自分からお手伝いを申し出ることが多くなり、怠けている姿を叱るという回数が減りました。

ホンモノ体験 その1

6

入1グループで様々な活動に取り組みます。特に、夕食をつくる野外炊事は大変でした。歩き疲れてもご飯を作らなければいけません。仕事の分担はグループで話し合って決めますが、決められたことをやっているだけではうまくいきません。例えば、調理で使った包丁やボールなどをいつだれが洗うのか？そのままの状態でご飯を食べてしまうと、後片付けに時間がかかりました。「いただきます」が夜の8時過ぎになった時もありましたが、眠くても後片付けが終わるまでは寝ることができません。最初の頃は、自分の手が空くと遊んでいた子供たちでしたが、徐々に調理をしながら、調理器具を片付ける人がでてくるなど自分ができることを探し進んで仕事をすることができるようになっていきました。また、いろいろな役割をすることによって、それぞれの視点からどうしたらうまくいくのかを考えた周囲の状況をよく見て行動することができるようになりました。



説明書を読んだり、調べたりしながら自分で自転車のメーターの電池交換をしていました。

できなかったり、わからないことがあると自分で調べています。

M

YOKOチャレンジは100kmを踏破するキャンプです。この100kmを歩く過程は、スタッフのリードや手本による歩きから子供たちの主体的な歩きへと発展していきます。特に自立のステージは様々なルートがあるため、難易度がとても高いのですが、子供たちはスタッフに見守られる中、自分の力で目的地へと歩いていきます。分岐点に立った時は地図を確認して、コンパスを使って、キャンプ序盤の経験を生かしてどうするかを話し合います。一度決めたルートを進んでも、途中で間違っていると（スタッフは間違いに気づいていても後ろから黙ってついていきます）来た道を戻り、もう一度地図を確認して話し合い、進む…。目的地に着いた時の疲れを感じさせない生き生きとした表情、「ヤッター！」という喜びの声。そして互いに手をつないでゴールしています。スタッフにリードされて歩いていたスタートの頃とは違い、自分たちの力でやり遂げる喜び、達成感を学ぶことができました。



3 生活習慣がきちんとできる

寝る時間、起きる時間、歯磨きなどを言わなくても自分でできています。



アンケートより

2 周囲の状況をよく見て自ら行動できる

4 自分で考えたり、調べたりすることができる



思いきり森で遊んだ後は、地元農家の方の畑に移動し、トマトとトウモロコシの収穫体験をしました。もぎたてのトマトのあまりの甘さにみんなビックリ! 普段はトマトを食べたがらないという子も、帰りの車中で「お菓子じゃなくて、トマト食べたい!」とおねだりしたそうです。



ホンモノ体験
その2

夏の幼児キャンプ

たくさんのお友だちとふれあう



の輪切りを樹木にあてて面白い表情をつくって遊んだりしながらたくさんのお友だちとふれあいました。

また、親子別々で寝ることに不安を感じていた子もいたのですが、夜の「キャンプファイヤー」で「火の子」をやったことが自信となり、「夜は友だちと一緒に寝られるよ。」と笑顔で話し、母親を安心させたというエピソードも生まれました。

歩いた距離は、猛暑の中一日4kmを超え、幼児にとってはかなりハードなプログラムでしたが、「家では甘えてばかりの子がこんなにたくましく見えるなんて。」と我が子の成長ぶりに驚いたという保護者もたくさんいました。

子供たちのやり遂げた笑顔やそれを見守る保護者の安心した表情がたくさん見られた価値あるキャンプになりました。

「幼児キャンプ」は夏(8月)と冬(1月)の年2回、全国の3、4歳児とその家族を対象に、どちらも2泊3日で開催しています。その中でも今回は、「歩く」「たくさんのお友だちとふれあう」ということをテーマとした夏のキャンプにスポットをあてて紹介します。

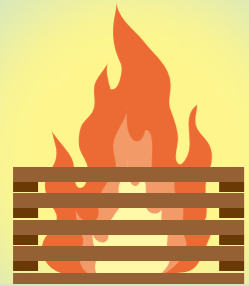
今年度新たに開発した「リスの森」と「サルの森」をメインフィールドとし、親子で、また、グループの友だちとたくさん遊びました。

初めての木登りにドキドキしながら挑戦する子、垂直に立った樹木でも、つるを使って上手に登る子など、自分の経験やレベルに合わせてどの子も思い思いに木登りを楽しんでいました。他にも、ハンモックに寝転がったり、目に見立てた木

「ちょっと心配だったけど、お友達と一緒に寝られたよ。」



「今の自分があるのは、
仲間や先生方が
いてくれたからです。」



キャンプファイヤー、「ピザ作り体験」を行いました。「はじめは男女で意見が合わないこともあったけど一緒に力を合わせることができてよかった。」という高校生の言葉にもうかがえるよう、一人ひとりの成長を強く感じられるキャンプになりました。

キャンプファイヤーの最後には一人ひとりが今の自分の思いをみんなに語る「仲間や先生方に向けて」という時間を作りました。消えゆく炎を見つめながら仲間や先生方へのメッセージを述べる子供たちの目は真剣そのもの。中には、「今の自分があるのは、仲間や先生方がいてくれたからです。」と涙を浮かべ、幼少期からの様々な思いやいつもそばで支えてくれた先生方への感謝を語る子もいたほです。

幼児から高校生まで、どの子供たちにとっても笑顔が溢れ、成長につながったキャンプでした。

生活・自立支援 キャンプ



今年度の生活・自立支援キャンプは8月、9月、2月の年3回実施しましたが、その中でも、8月と9月のキャンプにスポットをあてて紹介します。

上越地区の児童養護施設で生活する子供たちが、「幼児と小学生」、「中学生と高校生」に分かれて、それぞれ1泊2日のキャンプに参加しました。

幼児と小学生を対象としたキャンプでは、「スプーン・フォーク作り」、「源流探検」、「野外炊事」を行いました。それぞれの活動の中で、特に素晴らしいものが、上級生が下級生の面倒をしっかりと見てあげるといふことや、一人ひとりが自分でできることを考えて自主的に行動していたといふことです。中でも、「野外炊事」の際、火や刃物を扱う場面では、慣れている子や上級生が中心となって活躍していました。また、重いものを運ぶ時にはお互いに声を掛け合って自然と協力する姿が生まれていました。

次に、中学生と高校生を対象としたキャンプでは、全体の企画から子供たちが中心となって考え、「源流探検」、「キャ



「4年間の想いをこめて」

初めてのボランティアは、大学1年生の妙高感謝祭でした。子供たちの笑顔に溢れた、自然の家の暖かい雰囲気は今でも覚えています。それから妙高法人ボランティアとして4年活動させていただきました。

私がボランティアスタッフとして伝えたかったことは「仲間の大切さ」です。私自身、4年間志を同じくした宝物のような仲間がいます。

時にはぶつかり合いながら、それでも常に前を向いて子供たちのキャンプや施設整備など様々なことにチャレンジしてきました。多様な価値観をもった人と共に活動する楽しさや素晴らしさを子供たちに実感して欲しいと、子供たちの関係性や一人ひとりの気持ちに寄り添うことを大切に活動を続けてきました。お互いを認め合うことで信頼関係が成り立ちます。その基盤があることで「自立」や「感謝」の気持ちに繋がり、遅く成長していけると信じています。

これからもこの経験を糧に子供たちの「体験」を輝かせていけるように尽力していきたいと思ひます。4年間ありがとうございました。I love 妙高!!
新潟青陵大学福祉心理学科4年 狩谷 順子



新潟青陵大学 ぼらくと

ホンモノ体験は「実際の体験を通して、自然や事実、物事のつながりを知ること」ととらえることが出来ると思ひます。この体験は、一見すると、非効率的で時間がかかりますが、自分の体を使って汗水垂らした体験や、人と人が関わる中で生じる葛藤や喜びなどは、その人の「カラダ」と「ココロ」にじわじわと効いてきます。

アセンターの学生が、施設敷地内の様々なところを整備してくれました。例えば、施設の活動場所の看板を新しく作ったり、「元気もりもりの森」を開拓したりしてくださいます。

このような活動は、大学生にとって貴重な「ホンモノ」を体験する機会です。悩みながら「仲間」と話し合うことや、自然の家を支える「整備」を行うことなど、様々な体験機会がある中で、大学生はそれらの「体験」をとおして、自らの将来を切り開く「自己実現」へ向けた引き出しを増やしていくのです。



MYOKO Thanks project

① MYOKO Thanks Project
大学生ボランティアの有志が、10月に行われた「感謝祭」で来場者向けのオリジナルブースを出店しました。7名のチームでスタートしたこの企画は、悩みなから内容をカタチにし、たくさんの仲間を巻き込んで、当日は素晴らしい企画を展開しました。企画メンバーの一人である上越教育大学の吉内さんは「大学が離れていて会議などを進めることは難しかったが、他大学の仲間と協力して一つの企画をやり遂げることができて絆が深まった。」と話しており、普段は関わりが少ないう学生同士もボランティアをとおして交流を深めていました。

② 新潟青陵大学「ぼらくと」の活躍
新潟市にある新潟青陵大学ボランティア



ホンモノ 体験 その4

大学生ボランティア

妙高青少年自然の家ではたくさんの大学生ボランティアが活動しています。今年度は、147名の大学生がボランティアとして登録してくれました。以前は、子供と関わる教育活動が自然の家での主なボランティアの内容でしたが、今年度はこれまでにない関わり方を見つける学生も増えていきます。

妙高学びの森

森が様々な活動の幅を広げる源に
「妙高学びの森構想」によるフィールドの開発

近年、森の樹木を活用した体験活動プログラムのニーズが高まっています。森でできる活動は無量大です。

そこで今年度は、森の中での体験活動プログラム開発と環境の整備までの一連の流れを「妙高学びの森構想」とし、地域の方々のご協力のもと実施することができました。

幼児から大人まで、年齢やねらいに応じた様々な活用を想定し、木登りや森林探検などこれまでの概念にとられない体験活動プログラムを開発するとともに、図のような森の活動エリアの大規模な環境整備を行いました。

年次計画による整備

国立妙高青少年自然の家周辺では関山生産森林組合様の年次計画による計画的な整備が毎年実施されています。

平成28年度は、小池広場西側（現：清涼の森）と大洞原ハイキングコース

周辺でした。通常は切断してしまう湾曲した樹木を残す特別な伐採作業を依頼しました。

ボランティアの皆様による整備作業

運営協議会委員長濁川委員長・里山保全クラブの皆様、伐採後の林道の道付け作業を行っていただきました。樹木の間を通るバランスや林道のカーブ具合・斜度も勘案しつつコースを設定していただきました。また、清涼の森の整備では、NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会の皆様に、元気もりもりの森の整備では、新潟青陵大学・上越教育大学の大学生ボランティアの皆様が伐採後の小低木除去、根元部分の低木切断を実施していただきました。森で活動する子供たちが、低木根元部分につまづいて転倒することがないように、根気よく一本一本切断をしていただきました。

妙高学びの森構想による整備作業

妙高学びの森構想により、伐採後の森の整備作業を実施しました。大洞原ハイキングコース途中に、「りすの森」「さるの森」「うさぎの森」が新たに整備されました。小池広場、ふたご広場など既存の広場の林床整備を実施し、夏季〜冬季まで様々な活動の場として、活用できる森となりました。



ふたご広場



大洞原の森



大洞原ハイキングコース



清涼の森



元気もりもりの森



森林探検プログラム例

- みんな乗っかれ
- ハイキング
- クワガタ
- 私の木
- ハンモック
- 深雪探検・尻滑り
- 私はだあれ
- お弁当
- 雪灯籠
- 木登り
- 材料集め
- 秘密基地づくり・森小屋体験

森の中を歩くオリエンタリングに、仲間づくりや自然観察の要素を加えることで、昨今話題となっているアクティブラーニングのフィールドとしても活用が期待できます。

ナラの大木がある森では、ハンモックを使用することも可能です。空中でゆらゆら揺れるハンモック、妙高でしかできない面白い体験です。

ハンモック



材料集め

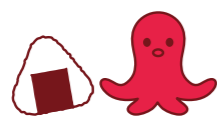
たくさんのお宝が森の中にはいっぱい。様々なクラフトに活用できます。



お弁当



森の中で食べるお弁当、日差しが樹木の葉で適度に遮られ気持ちよく過ごすことができます。お弁当を親子やクラスのみんで食べると、とってもおいしいね。思わずお昼寝をたくなってしまうかも。



木登り

通常は伐採してしまう湾曲した樹木をあえて残して整備を実施しました。木登りデビューに最適です。親子のキャンプでもとても好評でした。



ドングリの芽吹きも発見できます。



コナラの森にはクワガタもいっぱい見られます。(国立公園なので見るだけをお願いします。)



ハイキング



私はだあれ?



幹に木の輪切りや紙で作った目玉を貼ることで、動物のような?人間のよう?不思議な生き物ができあがります。お互いに自分の見立てた生き物の名前や特徴を発表し合うと、みんなの発想の豊かさにびっくりしますよ。

みんな乗っかれ



グループ全員が1本の木に立つことにチャレンジします。またいでも結構ですが、地面に足をつけてはいけません。曲がった樹木がたくさん残っている新しい森では、一度に何人か乗ることができるのでしょうか?

私の木



ペアやグループで活動します。案内人が目隠しした人のある樹木の脇まで連れて行きます。目隠しをした人は、目隠しをしたまま樹木に触れて特徴を覚えます。目隠しをしたままスタート地点に戻り、目隠しをとって触った木を探しに行きます。

これまで妙高では、人間関係づくり・仲間づくり活動に関連した活動として、妙高アドベンチャープログラムを、源流探検や植物・樹木・火山・動物に関連した活動として、妙高ネイチャープログラムを提供してきました。

新たなプログラム「森林探検」は、妙高の自然から学ぶ活動に取り組みながら、仲間と協力し合う活動もできるような構成されています。妙高アドベンチャー・妙高ネイチャー両プログラムの魅力をどちらも取り入れ、これまで以上にダイナミックな体験をできるように活動プログラムになりました。





スバルの丘/
芝生の斜面になっています。東側に向けた斜面で転が
り遊びを楽しんだり、満天の星空を望む星座観察をし
たりすることができます。また妙高山をバックに記念写
真を撮影することができるので、隠れた記念写真スポッ
トとなっています。



テントサイト/妙高山が一望できる箇所にテントを設置します。第2
野外炊事場のテーブルを移動すればさらに広いエリアをテントサイト
とすることも可能です。



第2野外炊事場/テントサイトと水
平移動で炊事棟に移動するこ
とができます。



テーブルは移動が可能なのでご利用
人数に応じて調整ができます。



キャンプファイヤー/第2 野外炊事場脇に臨
時に設置することができます。(要事前相談)



ありのすの森/第2 野外炊事棟の東側が
ありのすの森です。ありの巣のように小道が入り
組んでいることから名付けられました。



トイレ・緊急避難箇所/ふれあい棟2階にト
イレがあります。車いすの方でもご利用にな
れるスロープも設置されています。ふれあい
棟実習室が緊急避難所として使用できます。

MYOKO
キャンプ場

炊事・宿泊・森の活動が一つのエリアで完結できる バリアフリーキャンプ場

キャンプ場は、森の中にあります。全
体が緩斜面に位置していることで、車い
す等、移動に配慮が必要な方のご利用は
難しい状況でした。そこで、移動に配慮
が必要な方にもテント泊を楽しんでい
ただけるキャンプサイトを第2野外炊事棟
脇に新設しました。

第2野外炊事場までは車道が整備され
ていて車での移動も可能です(要事前相
談)。炊事場脇には、「ありの巣の森」も
隣接しています。テント泊・炊事活動・キ
ャンプファイヤー・森の活動が間近なエリ
アで活動ができるようになっており、特
別な配慮が必要な団体さんへの提供を予
定しています。



秘密基地
づくり・
森小屋体験

森の中で小低木を使用して秘密基地づくりが体験できる近年人
気のプロプログラムです。仲間と協力して世界に一つだけの自分た
ちだけの秘密基地ができる達成感は格別です。日が暮れた後
は、ナイトハイクで作った基地に戻り、「我が家」に滞在するの
も楽しい経験となります。



バケツに雪を詰めてひっくり返し、中にロウソ
クを入れれば雪灯籠のできあがりです。たく
さん作ってゲートにしたり、文字を表したり、
雪像にロウソクを仕込んだりと様々な遊び方
が楽しめます。



雪灯籠



深雪体験
・尻滑り



スノーシューやそりを使わずに、体一つで未
圧雪の雪原にチャレンジします。のぼり終えら
ば、自分がそりになって斜面を滑り下ります。
ポブスレーのようなスリルが楽しめます。



学びの森

事例

子供たちは遊びを考える天才です。自由に遊んで「ごらんと言ったらどんな遊びを思いつくのでしょうか。」

春には自然の中でどう遊んでいいかわからなかった子どもも、回数を重ねるにつれ慣れていったりお友だちに刺激を受けたりして、夏の終わりにになると待ちきれない様子でお気に入りの木に向かって走り出して行くようになります。一気に上を目指して登っていく男の子や、巻き付いている蔓をつかんで登る女の子、登っていた木の枝からぶら下がって遊ぶ子どもいます。

◇ ◆ 「この、暗い森に入るの？」
「明るくなったね！」

◇ ◆ 広く見通しが良い学びの森に向かうには針葉樹の林を通り抜けます。広葉樹の森に出たとたんに太陽の光が差し込みました。

◇ ◆ 「カシヤカシヤ」「シヨキシヨキ」「きゅうりをかじる音みたい」

◇ ◆ 秋には枯葉をかき分けながら歩きます。音の聞こえ方にも、それぞれ違いがあるのです。



Good!



社会福祉法人
ときわ保育園の皆さんの
様子



◇ ◆ 「手伝わないで。一人で登りたいから！」
「足もって」と足裏を支えてもらいながら取り組み始めた木登り。ある程度登ることができるようになると、保育者の手を借りずに挑戦を続けます。そのうち、枝分かれしている部分に落ち葉や枝を積み上げて足場を組むことを思いつき、何回目かのチャレンジでとうとう登ることができました。

◇ ◆ 「先生！これ登りたい！」
広い森の中では、自分のやりたいことを保育者に伝えるために、大きな声を出すこととなります。勇気が必要とした場面を乗り越えたあとは、自信をもって木登りに熱中することができます。

◇ ◆ 「すべりを取ればいいんだよ！」
苔むしている幹が滑ることに気づいたグループ。四季を通じて何回も接してきたため森の変化に気づく感性が、どんどん磨かれていきます。

◇ ◆ 「よし、俺がお尻押してあげる」
木登りで得た達成感が自信につながり、困っている友だちの手助けをすることも増えていきます。

◇ ◆ このように、小さなハードルを越えながら「自分の力でできた！」という経験を積み重ね、一つずつ自信をつけていく場面をあらゆるこちらで見ることができません。森の豊かな自然環境が、いつもと違う姿を解放するきっかけをつくってくれるのだと思います。

**ぜひお越しください!!
妙高学びの森へ**

「新しい森では、こんなにも楽しい活動ができるのか。」整備にかかわっていたいた学生さんやボランティアの方々や職員が感じている驚きにも近い感想です。今後は、多くの方から「妙高学びの森構想」による新しいエリアを活用いただき、皆様のご意見を参考にさせていただきながら、より楽しめる森に、発展させていきたいと考えています。



Wow!
すわれたよ!





妙高を支える人たち

体験活動の成果

NPO法人妙高山麓自然体験活動指導者会
(妙高ネイチャープログラム) 後澤正知

自然体験活動の要諦は発見・感動そして自然への気付きであると思っております。活動を成果あるものにするには、子供たち一人ひとりの今までの経験・体験・知識等を効果的に機能させて、生き生きとした活動から生まれるよう心掛けております。

活動は答えを直ぐに示さず、時間はかかっても子供たちの活動意欲を尊重しながら、見て手で触って、考えることの過程を大切に、創意工夫した独自の資料も活用しながら分かりやすく、楽しく、興味をもって発見し感動の喜びへと導いてい

きます。

こうした活動から、例えば自然界には無駄なものは何もなく、自然環境の中で動物、植物、菌類、気象条件などがお互い繋がり合っていること(命の循環)を発見した感動は心に強くきざまれるものと思っております。

また、動物、植物には個々それぞれの物語があります。この語りも活動に大切な要素と思っております。

活動最後の振りかえりでは、成果の表れとして発見した活動内容を、自信をもって全員が発表いたします。



是非またもう一度

キャンプ場管理人 宮下敏彦・山崎辰雄

私たち二人は今から三年前の六月から九月末までの四ヶ月間、国立妙高青少年自然の家でのキャンプ場管理人として勤めてきました。

主な仕事は、利用される皆さんの炊飯用具の貸出、使用後の点検、テント利用者の寝具の貸出及び点検、その他キャンプ場敷地内施設の維持管理、広場の草刈り等です。決して派手な仕事と感じていませんが、共に七十歳を越えた私たちには合った仕事かなと思っております。

利用者は、私たちにとって孫以下の皆さんがほとんどですので、初めての体験である炊飯がうまくできるだろうか、初のテント泊でぐっすり眠れただろうか、夜のトイレは大丈夫だっただろうか、

か等毎日気になります。しかし、子供たちに聞いてみると全く心配なく、少し焦げたけどかえて美味しくだったとか、疲れていたからぐっすり眠れた、など元気で少し笑える答えが返ってくるのでほっとします。ちなみに先生方に聞くと子供たちとは全く反対の答えが返ってきます。



このように子供たちや多くの利用者の皆さんに安心して、楽しく、思い出がいたいと思っております。是非また国立妙高青少年自然の家においでください。皆様のお越しをお待ちしております。



協賛企業等紹介

国立妙高青少年自然の家を応援して下さる企業や団体、地元の商店の皆様には、日頃から子供たちの活動や自然の家の活動にご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

今年度は、感謝祭や統合型長期チャレンジキャンプ「MYOKOチャレンジ」、第五回妙高山麓ライン滑降スキー大会などへの支援や、来所者を迎える花壇を整備する活動にも使わせていただきました。誠にありがとうございました。

平成25年度～平成28年度まで協賛金・協賛品をいただいた皆様

- (有) アイビーオート、朝日酒造(株)、家'Sハセガワ(株)、(株) 伊藤園、ウチダスポーツ、大原屋、(株) 大谷ビジネス、岡本石油、オリエント本店、休暇村妙高、頸南バス(株)、(株) 謙信堂、高坂防災(株)、コカ・コーライーストジャパン(株)、JAえちご上越関山支店、十二屋、新星建機工業(株)、(株) スノーピーク、(株) スーパースポーツゼビオ、(株) スワロースキー、関温泉組合、(株) 第一印刷所、上越支店、(株) 高館組、(株) 桐朋、特定非営利活動法人NICE、永田印刷(株)、新潟みらい建設(株) 上越営業所、(株) 西脇電気商会、(株) ニッコトラスト、(株) パーツプロダクション、(有) 白星社、ホシザキ北信越(株) 上越営業所、(株) 松橋建設(株) 丸山酒造場、妙高観光開発(株) 妙高カントリークラブ、妙高スキーパーク、(株) 横瀬オーデオ、(株) 渡辺リネン

【編集後記】

ホンモノ体験が提供できる施設でありたい

アンドロイド、iOSに代表されるスマートフォンでの青少年保有率は、平成27年総務省の「青少年のインターネット・リテラシー指標等」の調査によれば、91%を超えたそうです。手のひらに収まるスマホは、自分の部屋の中に居ながらにして、行っていない場所の詳しい情報や、美味しいお店、他の誰かが体験したレビューなど、何でも知ることが出来ます。そのため、自分ではその場所に行っていないのに、体験もしていないのに、行ったつもり、やったつもりになってしまします。また、買い物なんて当たり前で、SNSを通じて情報を発信したり、果ては一度も会ったことがない人と友達になる事も出来ます。必要は発明の母であり、便利な世の中はあり難いのですが、手っ取り早くやったつもり体験では、得られる喜びも借り物の喜びなのではないでしょうか。

中で大切にしていることは、体験を通じた青少年の自立であり、自分の体で実際に体験し、仲間と話し合い、そして協力するホンモノ体験です。今年度実施したMYOKOチャレンジでは、100kmを移動する中で「歩く」「食事を作る」「テントを立てて眠る」という単純な体験の中から、「自立」「協働」「感謝」の3つのねらいの達成を目指しています。その他、夏の源流探検では水の冷たさや川底の歩きにくさ、冬の深雪体験では雪の柔らかさなど五感をフルに働かせた体験があります。体験をしたからと言って、翌日からその人の行動が変わることはありませんが、地域の力を活用しながらホンモノ体験を積み重ねる施設でありたいと思っております。

国立妙高青少年自然の家
次長 桑山 宗大



感謝祭



ご利用いただく皆様に感謝の気持ちをこめて、活動プログラム体験会、ステージ発表、クラフト体験などを行いました。

ニールボラ



講習・演習を通して、自然体験活動指導者として、また青少年教育施設等で行うボランティアとして参画できる人材を養成しました。

事業報告
Report

今年度も多くの方から当所の主催事業に参加していただきました。その中から一部をご紹介します。



ライン滑降

全長3.5km(低学年2km)のダウンヒルレースです。スポーツに対する関心を高めるとともに、健康な心身の保持増進を図りました。

教員免許状更新講習



体験活動の教育的意義やその指導方法を理解し、教員としての資質・能力の向上を図りました。

フォーラム



体験活動の意義について、幼児教育・学校教育・青少年教育の視点から広く情報発信を行いました。

はねうま



新潟県内の自然体験活動施設と連携し3回のキャンプを実施しました。季節や施設の特徴に合わせた活動を行いました。



施設内の案内看板が新たに

学生ボランティアの力・弾ける

5月に新潟青陵大学の学生ボランティアから案内看板を寄贈いただきました。学生ボランティアが案内看板の老朽化に気づいたことがきっかけで、企画、制作、設置がすべて学生ボランティアによるものです。活動場所によって、それぞれ特徴のある看板となっていますので、お越しの際はぜひ確認してください。



キャンプ場がより使いやすく

トイレが和式→洋式へ

より快適で使いやすい施設となるために、キャンプ場トイレ(A炊事棟7基、D炊事棟7基)を洋式化しました。平成29年春より使用可能です。この夏もたくさんのキャンプ場利用者さんをお待ちしています。



ホームページもご覧ください。



URL <http://myoko.niye.go.jp/>

国立妙高

家族で自然の家に泊まろう!

「妙高の自然に親しむ会」を知ってますか?

自然の家の利用は学校や青少年団体での利用が原則ですが、「妙高の自然に親しむ会」に入会することで、家族でも利用することができます。

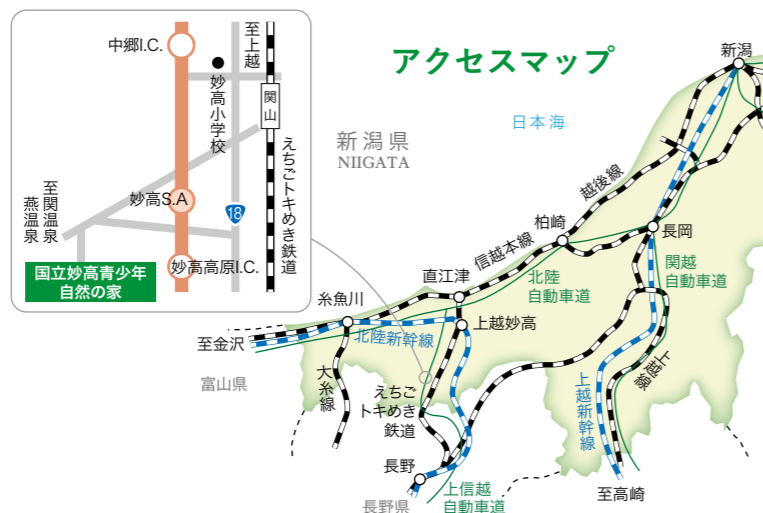
- 対象/青少年(29歳以下)がいる家族
- 入会手続き/ホームページ上の「ご利用にあたっての注意事項」をご承諾のうえ、お電話またはWebでご予約ください。(利用日の6か月前から可能です。)その後「入会申込書」を自然の家に郵送かFAXで送付してください。

■会費/無料
自然と関わるきっかけとして、ご家族の皆さまぜひご利用ください。※利用にあたっては当施設の自然体験活動を行っていただくことが必須となります。また、活動場所は他団体・他家族と共有になる場合があります。

ご意見・ご感想をお寄せください



〒949-2235
新潟県妙高市大字関山6323-2
TEL 0255-82-4321
FAX 0255-82-4325
E-mail myoko-so@niye.go.jp



- 1 申し込み書類の提出(利用日の一ヶ月前まで)
- 2 自然の家職員との事前打ち合わせ(利用日の一ヶ月前が目安)
- 3 当日

【申し込み方法】
1 お電話による利用申し込み予約(受付開始時期は団体種別によって異なります。)

施設の利用に関する内容

- ・ 妙高ネイチャープログラム幼児の自然体験活動指導者養成研修
- ・ 妙高ネイチャープログラムスキルアップ研修
- ・ 「自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修」兼「MYOKOボランティアアステックアップ研修」
- ・ 「自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修」兼「MYOKOボランティア養成研修」
- ・ 妙高アドベンチャープログラムスキルアップ研修
- ・ 妙高アドベンチャープログラム指導者養成研修
- ・ 教員免許状更新講習
- ・ 生活・自立支援キャンプ
- ・ 妙高アドベンチャープログラム指
- ・ 妙高アドベンチャープログラムスキルアップ研修
- ・ 「自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成研修」兼「MYOKOボランティア養成研修」
- ・ 妙高山麓ライン滑降スキー大会
- ・ 国立妙高青少年自然の家感謝祭
- ・ 学社共同参画セミナー
- ・ 豊かな体験活動推進フォーラム
- ・ はねうまキャンプ
- ・ 29年度 事業案内
- ・ MYOKOチャレンジ2017
- ・ 幼児キャンプ2017